

第19回「海の香りのする詩」

市内小学生の部

大賞

「タッチ ギュッ チュッ」

神島小学校 五年 藤原 亜瑚

わたしのお父さんは 巻き網の漁師です

夕方から一晩中 沖に行ってくれていきます

海が荒れている日

天気の良い日でも心配です

なぜかというと

じいちゃんもじいちゃんも弟も

海で亡くなっているからです

お父さんはいつも

沖へ行く時 ピリピリしています

だからわたしは 玄関でいつも

「タッチ ギュッ チュッ」

お父さんとそれをしないと

いやで気持ちが悪いです

お父さん がんばってね

お父さん 気をつけて行ってらっしゃい

「タッチ ギュッ チュッ」

わたしのおまじないです



海をテーマにした「海の香りのする詩」に市内から701点、市外(県内)から284点の応募があり、受賞作品が決定しましたので紹介します。

教育委員会生涯学習課



☎ 25 1268

わたしも高学年になって

放課後勉強 陸上や相撲練習があります

帰るのがおそくなっても

「タッチ ギュッ チュッ」

間に合うように 家まで走って帰ります

お父さんが漁師をしている姿

実際に見てみたいなあ

船に乗せてもらいたいなあ

でも じゃまになるだろうなあ

朝 お父さんの顔を見るとホッとします

汗だくで漁から帰ってくるお父さん

つかれて網仕事から帰ってくるお父さん

「おつかれさま」

わたしたちのために 命をかけて

毎日毎日 がんばってくれているお父さん

尊敬しています

大好きです



「タッチ ギュッ チュッ」 このことばに込められた亜瑚さんの思いが実に見事に描かれています。

毎日危険な漁に出る父親の無事をいのる思いと娘とかわす「タッチ ギュッ チュッ」に込めた父の思い、父娘の絆に感動しました。(選考委員長：松田健氏評)

市内中学生の部

大賞

「おばあちゃん」 品田甲斐（鳥羽東中3年）

わかめを持って立っている

その光景は、僕が生まれてからずっと変わることではない

「食べな」

わかめを差し出すその手は、僕のそれよりたくましく、力強い

小さいころから好きだったその手に、今日もまた、僕は安心させられる

でも、また海に入ったんだと思うと、心配になってしま

う

僕は、おばあちゃんの仕事をみたことがある。大人数でやることを、ほとんど一人でやっている

すごいと思うけど、もっと自分の体をいたわってもらいたい

僕は、そう思うけど、それは言わないでいる。

「がんばれ」

としか言えない
ちゃんとやったほうが良いのかな、と、僕はいつも考える

晩ご飯のわかめのみそ汁を飲む

温かくて、塩味が効いていておいしい

僕は、

「がんばれ」

としか言わない

それは、心配だと僕が言っても、おばあちゃんは必ず

「大丈夫やで」

といて、また海へ入ると思うから

それに、心配されるのは、おばあちゃんは嫌いだから

僕は、わかめのみそ汁を飲みながら、おばあちゃんの手

と海に入る姿を思いうかべる

「僕にできることはないのかな？」

と想いをかけめぐらせた

その他の受賞作品は次のとおりです。

市内小学生の部

伊良子清白賞 「魔法の手」 齋藤小夏（鳥羽小6年）

入賞 「おいげのばあちゃん

すもぐり名人」中村健柊（答志小6年）、

「海と話す」前田遼（桃取小6年）、

「届け届け君に届け」中井倫世（加茂小5年）

奨励賞 「海で泳ぐ」岡本さくら（弘道小6年）、

「2人をこまらせるゼンボ」小浦梨世（桃取小5年）、

「海の音楽会」尾崎萌香（加茂小6年）

市内中学生の部

伊良子清白賞 「インソギンチャク」山口太一（鳥羽東中1年）

入賞 「鳥羽の宝」川口菜奈子（鳥羽東中2年）、

「海と私」川中寿梨（加茂中2年）、

「おばあちゃんが作るころ天」小林豊大（鳥羽東中1年）

奨励賞 「島の友達」和田翔太（鳥羽東中1年）、

「鳥羽の海の戦跡をたずねて」前田優（加茂中1年）

みなさんの作品は、受賞作品集として編集し配布する予定です。

※敬称略



Vol.144

マタニティマーク

みなさんは「マタニティマーク」をご存知ですか。平成18年に厚生労働省によって作られたマークであり、妊婦さんや赤ちゃんを守るために制定され、今年で10年になります。外出時や公共交通機関を利用する際に、バックなどに付けたりします。

妊娠中、特に妊娠初期は、外見からは見分けがつかない、つわりなどで体調の変化が出やすく、また流産しやすいなど、母子ともに不安定な時期であり、健康を維持するためにも大切な時期です。

外出中に突然、具合が悪くなり倒れてしまった場合、周りの人たちが、救急隊に説明ができなくても、このマーク

を付けていれば、適切な処置や投与する薬の選択肢により、母体と赤ちゃんの命を守ることもできます。

しかし、まだまだ認知度が低く「子どもができた」「妊娠しました」といった「幸せのアピール」で付けていると誤解をしている人も少なくありません。時には、嫉妬心から暴言やいやみ、お腹を押されたりすることもあり、付けることをためらう妊婦さんもいるようです。

大切なことはマタニティマークを他の人に配慮して付けないのは、おかしいということです。なぜなら赤ちゃんを守るのは、妊婦さんであり、配慮すべきは、周りの人たちだからです。

このマークを安心して付けられるように、周りの人がマタニティマークをもっと理解し、優しく見守れる社会となつてほしいものです。

